第２回第１分科会（R5.8.7）後に意見等記入票で寄せられた意見

１　農業科における成果・課題、今後の方向性等についての意見

■検討会議委員①

○　農業は後継者不足なので、経営規模を拡大し、安定した収入を得るための経営学を中心とした学校作り。

○　農業の六次化に向けた農業・工業・商業の融合。

○　インターンシップで醸造業（味噌・醤油等）にも派遣する。

２　水産科における成果・課題、今後の方向性等についての意見

■検討会議委員①

○　基本的には船長や機関士を育成することが目的だと思うが、これからはダイバーやジェットスキーのインストラクターなど、インバウンドや多様化する水のレジャー産業を見越して生徒を育てることはできないか。

３　家庭科における成果・課題、今後の方向性等についての意見

■検討会議委員①

○　家庭科に進学する子どもたちは、将来、調理師やパティシエも目指しているが、家庭科の授業を教える教員を育てるため、高い学力が必要ではないか。

４　看護科における成果・課題、今後の方向性等についての意見

■検討会議委員①

○　青森県の少子高齢化に対応するため介護士の需要が大きい。県内に介護福祉士を養成する学科を新設することはできないか。

５　工業科における成果・課題、今後の方向性等についての意見

特になし。

６　商業科における成果・課題、今後の方向性等についての意見

特になし。

7　その他

■検討会議委員①

○　全ての学科に関して、幼少期から興味・関心を持たせることが必要だと思う。子どもの数が減っている今、小学校から様々な体験をさせるプログラム等を構築できないか。

■検討会議委員②

○　高校卒業後、社会に出て働く生徒が多いことから、プレゼンテーションやディーベトといったアウトプットに重点を置いた授業内容の科目を学校設定科目として設定し、自分の考えを他者に伝えることができる力を養成する。

○　今後、一次産業（特に農業や水産業）や看護の現場において、外国人実習生の増加が見込まれる。また、外国人観光客の増加も見込まれる。英語圏からばかりではなく、むしろ非英語圏からの入国者が多くなると思われる。そうした中で、重要視されるのが「やさしい日本語」の需要である。英語を話すのが苦手な生徒でも母国語である日本語であれば学びやすいのではないかと思う。また、これは、幼児や小学生とのコミュニケーション力を高めることにも繋がると思う。

○　昨年青森市で開催された全国高校産業フェアの青森県版を、青森市・弘前市・八戸市で隔年でも良いので実施する。そのための実行委員会を組織し、企画等は全て生徒たちの手に委ねる。そうすることにより、協働して何かを成し遂げる喜び（成功体験）等を生徒たちに実感させることができるし、実業高校で学ぶことの満足度のアップに繋げることができる。また、実業系の学校が一堂に会することにより、地域の人々に実業系学校をアピールすることができる。

■検討会議委員③

○　職業に必要とされる知識・技能の高度化に伴い、教員の指導力やスキルアップは欠かせない。県総合学校教育センターでの研修のほか、教職員自らが、地元企業等でインターンシップを行うことができるような体制を考えてはどうか。県教委と連携協定を結んでいる台北市の専門高校では、実際に教員が夏季休業中に企業でインターシップを実施しており、参考になると思う。